

特定放射性廃棄物の最終処分取組見直しに向けた  
国民からの御意見(追加)  
(平成25年10月12日～平成25年10月14日)

※個人情報等を除き原文を掲載しております。

○年齢：４０代

○性別：女性

○職業：主婦

○都道府県：愛知県

### ○御意見及びその理由

高レベル放射性廃棄物の問題において、これ以上、過去と同じことを繰り返している場合にはありませんので、今回の議論を大変注視しております。

９月２０日のWGの中継を聞きましたが、経産省が、現時点で知見の蓄積が進んでいるのは地層処分で、選択肢として残って来た手法であるから、地層処分を採用することに合理性はあり、これに可逆性・回収可能性を担保することで立地選定活動を最大限進めたいという意向を示したことに対して、委員から、決めたことを国民に説明するというのでは従前と変わらない、選択をする段階から住民が参加しなければ問題は解決しないとの意見が多く出され、大変心強く思いました。

経産省は、地層処分における可逆性・回収可能性の技術検証を現在の地層処分研究施設で行うことを考えていらっしゃるようですが、そのこと自体についても、原子力機構の改革が求められている中で瑞浪や幌延の研究延長につながるお話でもありますので、地層処分における可逆性・回収可能性の技術検証にどのような意味と効果があるのかないのか、そのためにどのくらいの時間がかかるのか（結晶質岩の瑞浪は予定の研究期間は約２０年とされているので２０１５年に終了予定）、住民理解は得られるのか等の問題点を含めて、住民参加の中で決める必要があります。

そうでなければ、またもや地層処分ありきで無し崩しに瑞浪での地層処分研究が延長することになり、国が決めたことに理解を求めるという図式のままで、住民の不信は強まるばかりです。

また、可逆性・回収可能性ですが、対象となる廃棄物が再処理した後のガラス固化体なのか、再処理せず使用済み燃料なのかでも違って来るのではないかと思いますので、伴委員からご指摘があった使用済みMOX燃料も含めて想定の中に入れた議論を求めます。